

(共同リリース)

2024年11月14日

日本航空株式会社
霧島市

霧島市と連携し、鹿児島空港内の作業車両で バイオディーゼル燃料「B100燃料」の導入を開始

JALは、鹿児島空港のある霧島市と連携し、CO₂排出量削減への取り組みの一環として空港内作業車両であるトーイングトラクター^(※1)にバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を、2024年11月14日より使用開始します。^(※1)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

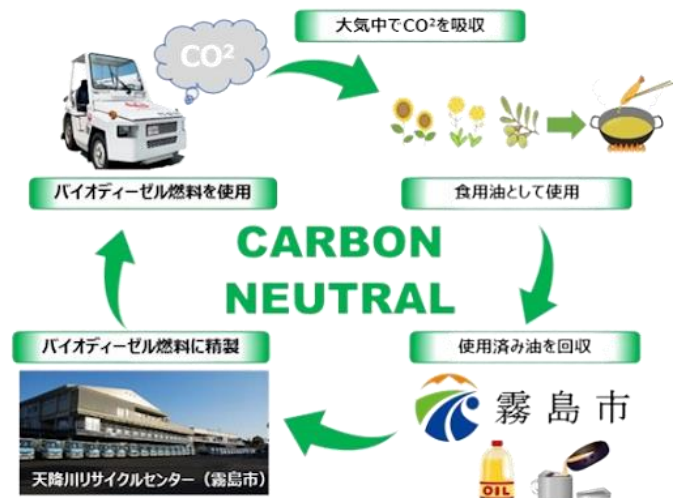
この取り組みにおいては霧島市が家庭から出る使用済みの天ぷら油などの廃食用油を回収し、精製したバイオディーゼル燃料を活用します。

「バイオディーゼル燃料」は植物由来の廃食用油から精製しており、原料の植物が成長過程でCO₂を吸収していることから、「カーボンニュートラル」の概念でCO₂排出量を実質ゼロにすることができ、軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO₂排出量削減の効果が見込めます。

霧島市とJALは鹿児島空港内の作業車両への「バイオディーゼル燃料」の使用に関する協定書を締結し、霧島市より委託を受けている株式会社国分隼人衛生公社(鹿児島県霧島市)が「B100燃料」の製造・供給を、鹿児島空港給油施設株式会社(鹿児島県霧島市)が給油を担当します。



<トーイングトラクター>



<循環イメージ>

JALはこの循環型エネルギーの利用を通じて地域や社会と連携、協働して「CO₂排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO₂排出削減に取り組んでまいります。

- 【運用開始日】 2024年11月14日(木)開始
- 【対象空港】 鹿児島空港(鹿児島県霧島市)
- 【対象車両】 鹿児島空港配備 JALトーイングトラクター 3台
- 【実験内容】 バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用

以上